

会 議 録

会議の名称	第10回小金井市公立保育園運営協議会次第	
事務局	子ども家庭部保育課	
開催日時	平成26年8月27日(水) 午後7時32分～9時15分	
開催場所	小金井市役所第二庁舎 801会議室	
出席者	五園連	東海林一基 委員(くりのみ保育園) 本多由美子 委員(くりのみ保育園) 岡崎 英 委員(けやき保育園) 八下田友恵 委員(小金井保育園) 寺地 理奈 委員(小金井保育園) 小泉 未紀 委員(さくら保育園) 片桐 由輝 委員(わかたけ保育園) 三橋 誠 委員(わかたけ保育園)
	市	川村 久恵 委員(子ども家庭部長) 鈴木 遵矢 委員(保育課長) 諏訪 知恵 委員(保育課長補佐兼保育係長) 前島 美和 委員(くりのみ保育園園長) 海野 仁子 委員(けやき保育園園長) 福澤 永子 委員(小金井保育園園長) 福野 敬子 委員(さくら保育園園長) 杉山 久子 委員(わかたけ保育園園長)
欠席者	五園連	市川 朋子 委員(さくら保育園)
傍聴の可否	(可) ・ 一部不可 ・ 不可	
傍聴者数	15人	
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 第9回会議録の確認について (2) 保育業務の総合的な見直しについて (3) 現場見学について (4) 保育ニーズ等について ア 延長保育のスポット利用について (5) アンケート調査について (6) 保育の質について (7) 当面の課題について (8) 次回日程の確認	
発言内容・ 発言者名(主な)	別紙のとおり	

発言要旨)	
会議結果	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 第9回会議録の確認について</p> <p>(2) 保育業務の総合的な見直しについて</p> <p>(3) 現場見学について</p> <p>(4) 保育ニーズ等について</p> <p>ア 延長保育のスポット利用について</p> <p>(5) アンケート調査について</p> <p>(6) 保育の質について</p> <p>(7) 当面の課題について</p> <p>(8) 次回日程の確認</p> <p>平成26年9月30日(火)19時30分から開催することとした。</p>
提出資料	<p>1 小金井市公立保育園運営協議会視察記録(たたき台)(資料41)</p> <p>2 延長保育のスポット利用(緊急一時利用)に関する論点整理メモ(資料42)</p> <p>3 平成26年度公立保育園の運営に関するアンケート(案)(資料43)</p> <p>4 職員募集配置状況(資料44)</p>
その他	なし

第10回小金井市公立保育園運営協議会 会議録

平成26年8月27日

開 会

○川村委員長 皆様、こんばんは。ただいまから小金井市公立保育園運営協議会の会議を開会いたします。よろしくお願いいたします。

○三橋委員長 議事なんですけど、きょう結構、盛りだくさんに書いてあるんですが、ただ、後で話があるかもしれません、(2)のほうはもうほとんど、特に議題にならないような形で、(3)の現場見学は先日の見学の共有となっていますけど、今日は(6)のところでは保育の質のところを、今回から初めて入るところで、園のほうからきちっと説明していただくということで時間をかけてやりたいなというのがありますので、(4)も新たな論点とか何か出てくることよりは、前回話したのを、それをちょっと見て確認するだけなので、あとアンケートも一応、親の中とかではいろいろと議論がありましたけども、こちら、市のほうで特に意見は出てないということなんで、そういう形で議事を進めさせていただければと思います。

○川村委員長 それでは、議事に従って進行いたします。

初めに、議事の(1)第9回会議録の確認についてを議題といたします。

第9回の会議録につきましては、お配りした内容で決定することにご異議ありませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

○川村委員長 ご異議がございませんので、第9回会議録につきましては、お配りした内容で決定いたしました。

次に、議事の(2)保育業務の総合的な見直しについてを議題といたします。

本日は特段の資料は出されておきませんので、次回の会議に送ることとしたいと思います。

次に、(3)現場見学についてを議題といたします。

それでは、小金井市公立保育園運営協議会視察記録、資料の41、これについて説明をさせていただきます。

○鈴木委員 それでは、説明をさせていただきます。

8月22日の金曜日午前9時から、公立保育園運営協議会において三鷹市にある井の頭保育園、それから国分寺にあるこくぶんじ保育園、恋ヶ窪保育園の3か所を視察いたしました。

今回、視察の記録として、たたき台という形でお示しをさせていただきました。資料をごらんいただきたいんですが、まず日時につきましては26年8月22日金曜日午前9時から、帰ってきたのが午後4時15分ごろということですね。

2番目、場所としましては、社会福祉法人井の頭会の井の頭保育園、国分寺市立こくぶんじ保育園、国分寺市立恋ヶ窪保育園の3か所です。

参加者につきましては表のとおりですが、国分寺のみの参加、井の頭保育園のみの参加について、備考欄に記載をしているところです。

次のページですが、概要としましては、井の頭保育園につきましては午前9時半から午前11時半までの時間に行かせていただきました。施設側の出席者としては、理事の西堀さん、園長の小玉先生、主任の江川先生の3人が対応していただけたところです。

視察に概要につきましては、園長、主任、理事から法人の沿革等について説明がなされた後、施設内の見学を2つのグループに分かれて実施したところです。その後、以下の質問事項に対し説明がなされ、質疑を行いました。以下の質問事項につきましては、まだちょっと整理し切れてない部分がございますので、ブランクとさせていただきます。

その次のページなんですが、ウ、委員会の感想等という欄を設けております。ここにつきましては、この後、皆さんご協議いただきまして、参加された委員の方の感想、気づいた点等を出していただき、それを掲載する形にしたいと考えてございます。それについてご意見をいただきたいと思います。

もう1ページめくっていただきますと、国分寺市役所での視察説明ということで、1時10分から2時15分ごろまで、国分寺側の出席者としては、保育課長さんと保育サービス推進支援担当課長さんと、担当職員の方々に出席をいただいているところです。

視察の概要につきましては、以下、先ほどの井の頭保育園と同様、視察項目に対し確認した事項について現在確認を行っているところですので、それについてはまた別の機会にお示ししたいと思います。

次のページですが、(3)として国分寺市立保育園現場視察、こくぶんじ保育園が2時30分から午後3時ごろまで、恋ヶ窪保育園につきましては、3時15分から3時45分までということで、現場視察を行いました。現場視察等を終わった後に、先ほどの井の頭と同様、気がついた点等を事務局にお寄せいただければと思います。

一応、たたき台としてこういう形でお示しさせていただきましたので、こういう形のほうがよいとか、ちょっとわかりにくいとかいうことがございましたらご指摘をいただきたいと思います。

○三橋委員長 この後のまとめ方として、今たたき台を出していただきましたけども、各項目ごとに質問した内容、ないしは確認した状況ですね、ある意味客観的な事実のベースが多いと思います。そういうのをここに記載して、それを踏まえて我々の中で、ここはポイントだったとか、ここのところについてこういったようなところが興味深かったとか、あるいはこういうところが参考になるんじゃないかとかっていうのは、これは委員の意見とか感想になりますので、そういうのは協議会の中で共有をして、今後の後の議論につなげていきたいというところになってます。

ちょっと、きょうの段階では、まだそういったところが全部整理し切れてないというか、細かいところについては先方ともいま一度確認しなきゃいけないところもあったりとかすると思いますので、きょうのところは、今、記憶がホットなうちに、この場で意見、感想を共有して、皆さんからもそういうのを聞くのを中で、もし何か質問とか疑問点とかあったらどんどん言っていただければと思いますので、まずはちょっと、そういったところをきょうやりたいかなと思っている次第です。ということで、もう、行った方に、できれば時間が1人一言ずつぐらいでも言っていただけたらなぐらいな感じではあるんですけども、初めに、東海林さんとか言っちゃってもいいですか。

○東海林委員 ちょっとまとめ切っていないところがあるんですけど。

○三橋委員長 いえ、もちろん雑駁な感想でも構わないので。

○東海林委員 私は3園全部、一応行かせていただいたんですけども、自分の中では、民間園と、それから公設民営っていうのってどういう雰囲気なのかなっていうのがちょっと知りたいななんて思いながら行ったんですけど、一番見せていただいて意外だったというか、驚いたのが、意外と正規職員の方が多いんだっていう印象を持ちました。民間っていうことで非正規が結構多くなったりするのかなとかっていうようなイメージを勝手に持ってたんですけど、意外とそうでもないんだっていうのがあって、そういう意味では、

民間っていうものに対して持ってたイメージ、不安みたいなもんが若干解消されたかなっていうのなら、まさにそうです。

一方、すごくいいところを見せていただいたんだらうなっていうような印象もありまして、逆に、見れる見れないは別にして、うまくいってないところの状況というのも今後勉強して知っていききたいなというふうにも思いました。そんなところですかね。

○三橋委員長 本多さん、どうですか。

○本多委員 私も今回3園見学させていただいたんですけども、まず、保育内容がいいところを見に行こうということで行った井の頭保育園なんですけれども、いろいろと話を聞いていく中で、実際行われている保育というのは、保育のやっぱり考え方とか、そういったことってというのはかなり小金井の公立園とも近いものがあるのかなと思いました。

いろいろと話を聞いていて、私は小金井の保育の内容に関しては結構満足しているほうでしたので、井の頭保育園の話を聞いて、やっぱりこういうのはいいんだなっていう、再確認になった部分もありました。井の頭保育園は、結構お子さんも午前中遊んだり体操したりっていうところを見れたんですが、とてもものびのびとした印象を受けて、いろいろといい保育をされてるのかなっていう印象を持ちました。

ちょっと、国分寺のほうは、市役所の基幹型等の取組とか、その経過とか、かなりいろいろと話していただいてとっても参考になったんですが、ちょっと実際の保育園の見学のほうが施設の見学という感じで、こくぶんじ保育園のほうはお昼寝の時間だったりで子どもの様子がちょっと見れなかったりとか、そういったお話を聞く機会が余りなかったんで、そういうところで、何か基幹型保育園といっても、実際役割なんか、なかなかびんとこないっていう部分はありました。基幹型保育園を3園設けてやっているってことだったんですけども、実際、どういったメリットがあって、どういった役割をしているのか、ちょっと何かびんとこない部分はありました。

そうですね、保育の内容的には、ちょっと小金井の保育とは目指しているところが違うのかなというのはありました。

○三橋委員長 ありがとうございます。もし、後で質問とかあればというところで。

じゃあ八下田さん、お願いします。

○八下田委員 私もまとめてないんですが、思いついたままに幾つか気づいたことを述べさせていただきます。

最初の井の頭保育園は建物もきれいで、理事の西堀さんがおっしゃってたんですが、

私たちの園は子ども一人一人を見てますっていうことで、一斉保育ではないっていうことで、すごく丁寧に子どもを見てるなという印象を受けました。

プールの時間でみんな子どもたちが楽しそうに遊んでいて、私たち大人が行って、ちょっと気恥ずかしそうにしたりしてる子もいたんですけども、みんな元気に遊んでました。給食を見せていただいたんですが、ゼロ歳児も、何名かいる子たちの給食をちゃんと月齢でずらしてて、少しずつおかゆの状態が違ったり、おかずの状態が違ったりっていうのを詳しく、ちゃんとサンプルも出てて丁寧にやってるなと感じました。

小金井は、果物はお昼に出るんですけど、そこの園は果物が必ずおやつ時間に出て、蒸しパンと果物とか、クッキーと果物っていうふうになってました。給食の品数は小金井のほうがちょっと多いんじゃないかなっていうふうに思ったり、そんな感じがして、小金井はすごく給食充実してるんだなと感じました。

それからあと、国分寺のほうはお昼寝の時間に行ったので余りよく子どもの様子はわからなかったんですが、どちらの園もお部屋自体に区切りがなくて、コーナーがないっていうか、井の頭とか小金井保育園は、クラスのここが遊ぶ部屋、ここが食べる場所、ここがおままごとコーナーっていう、そういうコーナーがあるんですけども、国分寺の保育園は2つとも部屋が広くて、多分おもちゃがどこか引き出しとかにしまってあって、それを出してきて遊ぶのかなっていうふうに感じました。

それから恋ヶ窪保育園のほうは支援室というのが設けられていて、保育園に通っていない子どもたち、親たちを支援するっていう意味で、年に2回、何かイベントをしたりっていうための部屋があり、保育園以外の親子のためにも保育園を開放しているという印象を受けました。

それからあと、国分寺のほうは基本的にお泊まり保育はないようで、例外で恋ヶ窪保育園はお泊まり保育をやったりという話があって、小金井のほうはお泊まり保育をして子どもにとってもいいと思っているので、そのお泊まり保育ができる今の小金井の環境がすばらしいなというふうに感じました。

簡単ですが、以上です。

○三橋委員長 ありがとうございます。

寺地さん、どうですか。

○寺地委員 ほかの委員の方とも結構似た感想を持ってるんですけども、井の頭保育園のほうは十

分にお話が聞けて、部屋とかプールの時間とか、遊びの時間とかもゆっくり見れたんで大分知ることができたと思っているんですけども、その中でも童歌とか、体育、描画、文学、数、環境認識といった教育的な言っていいんですか。

○三橋委員長 要はどういう教育なんですか。

○寺地委員 こうしてるときに、これは何か、例えば時間カリキュラムが決まってる、一斉にみんながやるのかなとか、何ていうか、全員やらなければいけないものなのかなって思ってた。聞いたら、一斉ではなくて、一斉はプール、体操のみということで、あとは子どもの興味、ペースが違うので一斉にしてないということが知れたということがよかったなと思ってんですけども、子ども目線で考えていて、子どもが考えて見通す力を養うってことを聞いたんですけど、それがすごくよいなと思いました。あとは、それが一番よくて、そうですね、あとはほかの委員の方と同じような意見ですかね。

それから国分寺のほうなんですけども、基幹型の説明がよくわからなかったというか、ざっとあの時間であれを理解するのはちょっと無理かなと思って、その後、こくぶんじ保育園に行ったらお昼寝だったので、部屋のつくりとか避難経路とかの説明をお伺いしたりとかがあったので、ちょっと子どもの遊びの様子とか、先生たちとかのかわり合いとかが見れなくて残念だなということと、もっと時間がとれなかったのかなっていうことが印象にあります。

それから恋ヶ窪保育園なんですけども、園長先生は結構熱心な印象を受けましたね。それで、イベントがすごい多かったので、それはすごいなとは思ってたんですけども、逆にそのイベントをやるに当たって先生たちがどういうふうに編成を組んでいて、何というか、保育士さんたちのお話が聞きたかったなっていうのがあったので、やはりこちらもちょうと時間がなかったってということと、いろいろ聞けなかったってことがやはりちょっと残念ですね。それぐらいですね。

○三橋委員長 ありがとうございます。小泉さんのほうから。

○小泉委員 私、国分寺のほうだけしか行けなかったんですけども、いろいろと質問事項にも丁寧に答えていただいて興味深かったです。

用務員さんの配置の話とか、それから民間の園のほうが正規職員が多いとかっていう話はすごく興味深かったです。ただ、年収が全然違うとかっていう話はすごく驚いて、民営化する前は平均800万だったのが民営化すると400万ぐらいになるっていうような話も聞いて、実際にそれぐらいのお給料をもらっているのはどれぐらいの年齢層の

方なのかちょっとわからないんですが、国分寺は30代の方が多い、8割だって聞いたので、30代でそんなにもらっているのかなって、ちょっと疑問があったりもしたんですけども、それぐらい財政面では違うんだなっていうのはわかったんですが、もうちょっと詳しく、そういう財政的な効果っていうか、民営化したことによってどれぐらいのメリットがあったのかっていうところと、長期的には正規職員はふやしていきたいっていう話もあったので、そういう正規職員が年収は減るんでしょうけれど、正規職員がふえると長期的に見るとどれぐらいの財政的なものになるのかなっていうところまでもぜひお聞きしたかったです。それから、保育料のほうも、そうなると思うのかなんていうところも疑問に思ったりしました。

あと、これを見ながらほかの方と話を聞いたところなんですが、担当制がないのかなねっていう話も出ていたので、そういうあたりももうちょっと質問ができればよかったなと思いました。終わった後も、後から、家に帰ってからももうちょっとこういうところ聞きたかったななんていうところがあったので、追加でもしできるものなら質問したいなというふうに思います。

○三橋委員長 ありがとうございます。追加の質問とか、もしあれば、事務局のほうへ。

あと、岡崎さんどうぞ。

○岡崎委員 私、午前中、井の頭保育園のみ参加したんですが、率直な感想とすると、けやき保育園にうちは通ってるということもあり、園舎は非常に新しいので、施設であったり環境というものに関しては、全然、正直負けてないなという感じを受けました。

あとは、だから聞いてきた、そのヒアリングした内容と、当市の5園のうちのどの園がいいのかは、それこそプロの人に判断は任せますが、そことの比較をして、何ですかね、客観的な事実の比較から始めて、内容に突き詰めていくっていうほうがいいのかなんていうふうに正直思いました。

○三橋委員長 ありがとうございます。

じゃあ、海野さん、よろしいですか。

○海野委員 私は午後からの参加で、国分寺の保育園を見せていただきました。国分寺の福祉の保育課の方々が4人も参加していただいて、丁寧に説明していただいて、もう自治体同士の、何ていうか、関係っていうか、助け合っているんだなというような感じはすごく強く印象を受けました。時間をたくさん割いていただいて、国分寺が民営化にいかにか成功したかというお話を聞かせていただきました。民営化に当たっては、経済的なメリット

が最も大きいというようなこと、それから国分寺の民営化は成功して、保護者の満足度が高い、失敗したようなガイドラインではなく、柔軟性のあるすばらしい中身のガイドラインを作成しているというような、小金井も頑張ってくださいというような印象でした。

この中ですごくいいなと思ったのは、基幹型保育所システムワーキングチームというのを設置して、ここが国分寺市の全体の保育の質を上げるシステムをつくったっていうようなことで、これはすごく新しい民間の保育園がすごく、平成20年度以降にできてる保育園がたくさんあるんですね、こういう保育園がたくさんある中で、全体の質を上げる取組っていうようなことはとても大事なことで、そこに保育課がきちんと目を向けて事業計画を立てているということはすばらしいなっていうふうに思いました。ただ、この中で基幹型保育所の機能っていうのが、時間も十分なかったということもあり、やっぱりまだ、このときの中ではちょっとわからなかったなっていうようなことがあります。

あと、保育園の見学については、子どもの遊ぶ姿が実際に見ることはできなかったもので、ちょっと判断がしにくいなっていうようなことが一つと、給食室に展示されていたお食事はすごくおいしそうだなっていうふうに思ったとこと、陶器を使っていて、見た目がすごく子どもたちが喜ぶような形になっているなというようなことと、あとは先ほど、コーナーがないとか育児の担当制をとっていないっていうようなことがありましたが、こういう点はやっぱり小金井の保育とは大分違うところかなっていうふうに感じました。

○三橋委員長 ありがとうございます。

次は園長。

○杉山委員 もう皆さんがほとんど言うてくださってるんですけど、私も一日で3か所っていうことで、園によっては午睡中であつたということと、保育の中身を見ることができなくて、室内も余り見ることができなくて残念だったなっていうのが一つあります。

国分寺のほうでは、今、海野さんが言ったとおりなんですけれども、国分寺市全体の保育の質の向上を目指しての計画、ワーキングシステムの計画というところではそういうふうに考えているシステムでも参考になるところもありましたけれども、私も自分の勉強不足もあるんだけど、基幹型としてある3園がどのような機能をしているのかっていうのはちょっとわからなかったなっていうのもあるので、ほかの自治体の基幹型も含め

てまたちょっと勉強していきなというふうに思いました。

井の頭保育園については、乳児の担当制であったり、担任の持ち上がりへの考え方だったり、童歌や課業などの考え方は、基本、現在小金井で行っていることと変わらないなっているところは私も再確認したかなというふうに思いました。やっぱりいいんじゃないかな、自己満足ですけれども思いました。

幼児クラスのほうの連絡帳はないというふうに、基本って言いましたけれども、その日の出来事、写真でカラーでプリントアウトしたものがきちっと幼児のクラスのところに入れてあって、わかりやすく保護者の方にその日のことをお知らせしてるってところとか、手づくりおもちゃが利用されていたり、コーナーがちゃんと室内にあったりってところが印象に残っています。

あと、こくぶんじ保育園と恋ヶ窪保育園のほうでは、やはりなかなか中が見れなかったりと残念だったなっている、やっぱり保育士たちに話を聞いたかったなっているのがありますが、恋ヶ窪保育園のほうの病後児保育室のほうでは他園の方も使うということもあって、そのときに出されてる食事とかが写真の大きなパネルになってしてあって、ほかの園の方の利用者にもわかりやすく、親しみがあるようになっていう工夫がされているなって思ったことと、あとは20時までの延長保育を恋ヶ窪はされてるんですけども、6時過ぎになると補食と夕食って分けなくて一斉に夕食をとる形式をとっているという話を聞いて、なるほど、そういうやり方もあるんだなというのを一つ思いました。

○前島委員　私も井の頭保育園と国分寺のほうの両方を行かせていただきました。井の頭保育園のほうは、以前にも見学に行かせていただいたりしているので、すごく気をつけて保育されているなっているのをすごく改めて感じました。

養護と教育の中で、課業のところでも一斉ではなくて、きちっとカリキュラムはあるけれども、遊びの中で一つ一つつながっているってということ、全くゼロから説明をしてくださったんですが、積み木を1つ積んで、もう一つ積んで、高いねって言うのも、それも数につながるんですけどっていうお話があったり、そういうことをきちんと一つ一つ確認しながら保育の中で積み重ねているってところが同じように考えているところだなっているのがありました。

コーナーづくりのところでも、コーナーに遊んでいるおもちゃが残っていた、つながっていたんですけども、それも遊びが次の日にも、またその次の日にもつながっていくってというのは、同じ形で遊びを広げていけるっていう環境にあるなっているのがよく

わかりました。見立て遊びの面でも、布とか人形とかボールとか、どのクラスにもたくさんあって、2歳児クラスは特にそれがたくさん、同じ数だけ、みんなが使えるようにたくさん同じものを用意してますっていうところが、小金井市でも同じようにできればと努力しているところなので、同じようだなっていうのはすごく思いました。

障がい児保育に関しては枠というものがなくて、三鷹市のほうからことしは何人受け入れられますかっていう形で受け入れているそうです。ゼロ歳児と1歳児と障がい児がいるんですが、ダウン症のお子さんとゼロ歳児に1人いらっしゃるのを見たんですが、実年齢は1歳児クラスで、発達年齢がゼロ歳児クラスと、ゆっくりなのでゼロ歳児と一緒に保育をしているというお話でした。あと、スポット利用があるので見ました。あそこはすごく案内にも詳しく載っていたので参考になりました。

国分寺市のほうは、やはり保育課の方がいろいろ説明してくださって、きちんと私も理解し切れないところがあったんですが、一番思ったのは、平成20年から26年度までに600名の定員増、たくさん保育園をつくって600名の定員増を掲げていて、現実的に行っているところはすごいなと改めて思いました。

あと、先ほど海野さんがお話ししてたワーキングシステムもきちんと研修がたくさん毎月入っていたりとか、そういうところはすごいなということが感想であります。

こくぶんじ保育園はやはり、恋ヶ窪保育園もそうなんですけれども、午睡中だったり、すごく短い時間だったので、子どもの遊びをやる姿が全く見られなかったもので、コーナーづくりとかも、見たときにはお昼寝起きだったのでコーナーとかはなく過ごしていたので、また保育の面では国分寺とはちょっと小金井は違うのかなというのがありました。

赤ちゃんのクラスでも食事を食べるときに私たち、赤ちゃんを見れるようにご飯をここに置いて、ゼロ歳児のうちからご飯を見れるように介助してるんですが、国分寺では、赤ちゃんがこう座っていたら、こちらのほうに、保育士さんのほうにご飯があって、こっちからスプーンで運ぶような形だったので、そういう保育の仕方他市ではちょっと違う形をとっているんだなというのが改めてわかりました。

○三橋委員長 川村委員長は、

○川村委員長 私は結構です。

○三橋委員長 という僕、しゃべりづらいんだけど、いやいや、すみません。正直、非常に興味深くて、1個1個気になったところを書きとめたり質問したことをここでもう話し出すと、多分それだけで1時間たつぐらいいろいろと興味深いと思うことがありました。

一つ一つというか、大きなところについても皆さんからかなり出て、意見出ているとおりなんであれですけども、ちょっと思ったのは、やっぱり井の頭保育園に関しては、目指している方向性というか、やはり交流も多いですし、小金井の保育とかなり共通しているのが多いなと思いましたし、小金井の保育園では、今もうやれなくなったというか、できなくなったというか、いい悪いじゃなくて、あくまで特徴という意味ですけど、例えばおむつをまだ布おむつを使っていたりとか、あるいは園の中ではだして過ごしていたりとか、一つ一つ、小金井は小金井で判断して、そういうのをやめたりとかしてはいますが、それがまだ続いてたりとかっていう形ですとかね、やっぱり目指してる方向性で一つ一つの、何か、保育の中身でもやっぱりこだわりなり、説明を聞く中で、こういうところに結構配慮してるんだなっていうところが、特にちょっとしたこと一つ一つがやられてるなっていうところは感じた次第です。

ただ、それは一つ一つの積み重ねなんですけど、もうちょっと俯瞰的に見たときに、先ほどどなたから話があった中、養護と教育っていうのを僕はちょっとキーワードだなと思ったんですけども、養護っていうのは健康だとか食事だとか、排せつだとかで、そういうような面ですよ、それに対する一つ一つの配慮があり、教育のほうについては、決して教育を何か上から目線でやるっていうことではなくて、日ごろの日常の遊びを中心として、でもその遊びの中に、先ほどから体操だとか美術だとか、数学だとか文学だとか、あるいは素物語だとか、7つのカリキュラムというものがあって、幼児一人一人の関心に合わせて、それに合わせてカリキュラムを組んでやっていくといったところが、もうしっかりと考え方として持ってやられてると。

やってること自体は、一つ一つの話を知ると小金井でもやってるようなこととか、そういう形で共通してる部分が多いなって思ったりするんですけど、それをきちんと体系立てて整理して、説明をされて、実践されてるというところがあるなと思ったんで、小金井でもきちんとそういったことを整理したりするなり、第三者に保育の質がわかりにくいとかってよく言われたときに、そういうのをきっちり、この場でも、この後やりますけれども、そういうのもきちんと説明できるような形になっていくとまた理解されていくんじゃないかなと、ちょっと思った次第ではあります。

また人の話も普通なかなか回答しにくいことに関しても非常に真摯に回答していただいて、やっぱりシステムというかやり方、これは民間園だからこそかもしれませんけども、新人の方を採って長く働いてもらうっていうようなやり方、別に新卒以外の採用を

採る採らないも、いいとか悪いとかっていうことじゃなくて、それも一つの特徴になっているなっていうところに思いましたし、そういった理事の方なり園の方の今までの蓄積というのがあって、少なくとも4月から採るときに関しては、それほど苦勞なく、しっかりと人を確保できている。ただ、年度途中でやめられるっていうか、休職されたりとか、そういうのに関してはすごい頭が痛くて、やっぱり人をどういうふうにマネジメントしていくかっていうのが一番の課題だっているということが言われたっていうのも非常に興味深く思いました。でも、それでも平均年数なんかも非常に長い年数働かれて、年齢構成も20代から50代までほぼ満遍なく人がいらっしゃるといふ形のところっていうのは、もうすごいなっていうか、やっぱり井の頭保育園だからこそという形ですよ、ちょっとそういったところを含めて非常に勉強になったというか、いろいろと勉強させてもらったかなど。

小金井と井の頭で逆に違うなとかって思ったのは、小金井よりも、何かもうちょっとシンプルだなっていう感じがしましたね。それは意図的にシンプルにさせてるっていう、もう部屋とかには何か張ったりとか、特に、最低限の張り紙とかそういったものだけで、いろいろシンプルして片づいてるような形、そういうような感じでやられてるし、逆に施設面とかに関しては、どちらもいいとか悪いとかではなくて、小金井は小金井で非常に恵まれた環境なり施設なりっていうところがあるなと思いましたが、あるいは散歩に関する考え方なんかも、いろいろと周辺環境とかがあるので、ちょっとそういったところを一つ一つ興味深く比較させていただいたという次第ではありました。ちょっとまた、おいおいそういうのをいろいろと議論をする中で話をしていきたいなというふうに思っています。

国分寺のほうも皆さんからお話があったとおりで、なかなか短い時間だったということ、ないしは一方でいろいろと説明に関しては配慮をいただいて、基幹園の話もかなりしていただいたり、あるいは今委託なり、そういったところもしてるようなところがあるので、そういうことについて、父母とかの関係とかも含めていろいろと興味深く話を聞かせていただいたかなというふうに思っています。

そういう中で基幹園として、お話があった民間のことも含めて、いかに全体の底上げをしていくか、そのときに研修システムで、ワーキングシステムのつくり方で研修とかいろいろと交流とかをしていく、それも強制でなくて、魅力あるようなプログラムをつくることで参加をしてもらっていくようなやり方、その理念は本当にすばらしいなと思

いましたし、あとはそれを、ちょっとどういうふうの実現というか、実績を上げていくかということについて、やっぱり今いろいろとやられてるんだなっていうところを感じた次第であります。

ちょっと具体的なところは、もう少し確かにお聞きしたいなとかっていうのもありましたんで、それについてはまた個別にご質問をさせていただいたりとか、別に今回で終わりということではないと思うので、また話をさせていただきたいなと思ったりはあります。すみません、長くなりました。

○川村委員長 ありがとうございます。

ただいま視察に行かれた方からの感想をお聞きしましたけれども、行かれてない方で何かご質問、こんなところどうだったのというご質問があれば伺いたいと思いますけれども、いかがでしょうか。特にございませんか。

そうしますと、この中身について。

○三橋委員長 とりあえず、何か質問とかがなければ、今先ほど国分寺のことですとか、どうしてもちょっとここだけは聞いておきたいとかがあれば。普通の質問でもいいですし、あるいは基幹園についてもうちちょっと何か、資料とかもたしかありましたよね。それをちょっと共有したりとか、そういうところはこの後、事務局のほうでちょっとやっていただくようにして、まとめ方としては、じゃあ何もなければ、今日の質問とか意見とかも含めて整理をしていくという形でよろしいですかね。

特に、これだけはちょっと一言言っておきたいというようなのがもしなければ。

よろしいですか、じゃあ。

○川村委員長 それでは、以上で(3)の現場見学についてを終了いたします。

次に、(4)保育ニーズ等についてを議題といたします。

延長保育のスポット利用についてを議題といただきたいと思います。

○三橋委員長 そうですね、もうこれに余り時間、すみません、きょうはないので、僕も余り今ここで読み上げたりとかもするつもりはないので、一応これ、今回お出しさせていただいて、見ていただいて、ちょっとここ違うんじゃないかとか、何かあれば。基本的には前回のここの中で出てきた意見を整理するなり、今までの資料から取り出したりとかっていう形です。一番は、今回はどちらかという五園連からの要望から、ないしは八下田さんとか、父母側からスポット利用できないかという話がある中でのニーズです。そこからニーズの例として、日割りにしてほしいとか、緊急の場合での対応が可能であれ

ばお願いしたいとかいうようなところの話とかをした上で、市の回答としては、まだきちんと検討ができてないっていうような話を回答いただいた。その上で、論点的なところで、やっぱり体制面の話が一番ちょっと大きかったりしますし、軽食の手配の有無ですとか、事務手間の話、利用料の設定のこととかもいろいろとありますねっていう話の中で、他市の現状の保育体制の検討も踏まえ、現状の保育体制でどうかっていうのが一番、大きいと。今のところ、さらなる検討が必要だということの整理をしています。もし何かあれば、ちょっとこの後でもお話いただければと思いますが、何か、どうしても今このタイミングで一言言っておきたいというのがあれば。

よろしいですかね。じゃあ、ちょっと次で。

○川村委員長　それでは、特にないようですので、これをさらなる検討が必要ということで整理をしたいというふうに思います。

それでは、次に(5)アンケート調査を議題といたします。

それでは、資料の43、平成26年度公立保育園の運営に関するアンケート案をごらんいただきたいと思います。

○三橋委員長　こちらのアンケートのほうも、一応8月15日までに事務局のほうに連絡ください。あるいは、我々五園連の中でも15日までに意見を取りまとめさせていただいて、事務局のほうには特に意見はなかったということで、五園連の中でちょっと、少し幾つか話があって、先日の五園連の中で少し意見交換をしまして、今この修正案的な形で最終的にお出ししているような次第です。

まず最初に、この後の手続き面で、ご承認されたらですけども、先にお話しさせていただくと、網かけしてるところは、前回から変えた部分になります。日付を9月1日付でアンケートの、承認がとれたらこういった形で出すと。9月10日までにご回答いただくという形で、提出の先は各クラスの提出袋という形になってます。

五園連の中でもちょっと話はしたんですけど、園によっては、去年各クラスの提出袋で、よくある提出袋に名簿をはって、アンケート自体は無記名ですけど、提出したら名簿にチェックをしてくださいみたいな形でやると、ちょっと提出率結構上がりますし、無理して出してもらわない必要はないので、忘れちゃった人なんかいたら、声かけをすると大体の方が、ああ、忘れてましたっていう感じのケースが多いので、回収率をちょっと上げるような形で父母も協力してやりたいなと思ってます。

事務局のほうで集計なり、あるいはこういった質問等の問い合わせをしていただける

という形になってますので、これが全体的なところの立てつけのところといたしますか、全体のところで、中身に関しては前回とほぼ変わっていないという状況です。若干、3番の保育内容のところ、先ほどの情操教育というふうな話でもないんですけども、そのところで「日常生活や遊び・玩具を利用した教育、わらべ歌、プレーデー」みたいな形で、少し言い方を変えたところと、4番の保育の質のところについては、園児1人当たりの保育士の数というのをちょっと間違えていたところを直したり、看護師、栄養士の存在をちょっと加えたりっていう程度で、全体的には何か大きく変えたという部分はございません。

もしこの場でご質問等、受け付けまして、特に問題なければ、これで配布、回収というか、やっていきたいと思っております。以上ですけども、いかがでしょうか。

○川村委員長 何か、ご質問等がありますでしょうか。

特にないということであれば、このアンケートを9月1日にご配布したいというふうに考えてございます。

それでは、以上で(5)のアンケート調査を終了いたします。

では、続きまして(6)保育の質についてを議題といたします。

○三橋委員長 そうですね、今回から新たな内容で、ようやく、ちょっと今までニーズの話が多かったんですけども、保育の質の話ができてくるかなというところで、今回は園長先生方のほうに、少し話をしていただけることになってますので、お願いします。

○福澤委員 小金井保育園の福澤です。すみません。

今回、お食事ということで、ちょっと絞って。

○三橋委員長 食事ですね。

○福澤委員 はい。お話しできればと思っております。

離乳食の進め方の目安を配っていいでしょうか。5園で共通のものなんです。

○三橋委員長 よろしいですね。

○福澤委員 じゃあ、お願いします。

○三橋委員長 じゃあ、後で資料ナンバーを振って。資料ナンバー45ということで。

○福澤委員 済みません。

○三橋委員長 もし間に合うようだったら、事前に事務局に言っていただければ。

○福澤委員 そうですね。はい、すみません。

○三橋委員長 いえいえ。

○福澤委員 それと、今お配りしたのが公立保育園の栄養士の給食のほうで出している、離乳食の進めた方の目安って書いてございます。

すみません、乳児の説明させていただくんですけど、ゼロ歳から2歳の食事で共通して大事にしていることっていうのがありまして、それが担当制をとっているっていうことと、あと、テーブルクロスがその子の体に合うように工夫しているっていうこと、あと個別の発達に応じた援助をしているということと、あと、食事に興味を持てるようなかわりを持ってっていうようなことがゼロ歳から2歳についての共通した大事なことっていうふうに思っています。

今回お配りしたゼロ歳の離乳食のことなんですけども、一番下の調理形態のところです、そこを見ていただければと思うんですけども、5か月ぐらいから離乳食が始まりますが、離乳食は細かくするとやっぱり8段階ぐらいになるんですけども、5か月ぐらいから始めて、滑らかにする、潰した状態からやわらか煮潰し状態、舌で潰せるかたさ、歯茎で潰せるかたさ、歯茎でかめるかたさ、スプーンに乗りやすい状態っていうのが書いてあります。

そういった調理状態、調理形態が少しずつ変わっていくっていうことがとても大事っていうふうに思っていて、それがその子の、その時期その時期で、要は食べる子に合ったものを提供しているっていうことなんです。口の中の操作とか機能が育っていくためには、こういった順番をきちんと積み重ねていくことがとても大事で、それによってはそしゃく力だったりとか、飲み込む力だったりとかをつけていくことを大事に思っています。お食事っていうのは一生ついて回るものなので、やっぱり保育園の時代だけではなくて、何ていうか、健康、その子の体づくりのためにはすごく大事であって、この離乳食も大事だっていうふうに私たちは思っています。

この中で、後期っていうか、書いてないですね、9、10か月ごろが大体後期って言ってるんですけども、このごろから子どもたちが自分で食べたいっていう気持ちが育っていく時期であるんですね。そういう時期にスティックのものだったりとか、あとは、ころころしたもので自分で食べる、そういった自分で食べたいという気持ちを育てるために手づかみで食べるようにするとか、つまんで食べるとか。手づかみでスティックのものを食べるができることによって、自分の一口大を覚えるとか、あと、かむことで歯がためにも育てていくっていうようなことで、この9、10か月ごろっていうのは少し通常の食、調理内容よりも少しランクアップした内容のものが出てきます。スティ

ックのものなんかでもニンジンとか大根とか根菜類もあって、キュウリは根菜類ではないんですけども、インゲンとか芋とか、そういったものも出しております。自分で食べたという気持ちを育てるようにしています。

あとはスプーンになります。最初、離乳食は5か月ぐらいから始めるんですけど、まず最初に保育園から始めるわけではなくて、離乳食は白身魚とお豆腐をおうちで試してもらって、その後で園で始めましょうということで始めてるんですけども、スプーンが、ちょっと皆さんに見てもらおうと持ってきました。最初の5か月ぐらい、最初に離乳食が始まる時は、こういったスプーンを使っています。本当にちっちゃな一口が入るかどうかという感じで、こういったスプーンを使っています。このステンレスが嫌な子もいるんですね。最初にスプーンで口に入れたときに、このステンレスの感触っていうのが嫌な子もいるので、そういう場合はこういった感じでシリコンのスプーンを使って、シリコンになれたところで戻すっていうような感じのやり方をしています。その後、介助スプーンっていうのを使うんですけども、このスプーンは、私たちが介助するだけではなくて、子どももこういったスプーンを使う時期があります。その後に乳児用のスプーンということで、介助スプーンと乳児用のスプーンは柄の長さが違うんですけども、これで子どもたちが自分の手首を使ってスプーンを使えると、こなせるような感じで使っています。

食器、食事の、これ陶器なんですけど、これがおかず、今これはスープを入れてあります。これがご飯とかそういったもの、これも陶器。これは、まず子どもたちが最初に使うのは、1歳になったときに牛乳をこれで、この牛乳入れて、11、12か月ぐらいに今度は両手で持って飲むっていうような動作をしていきます。そういった食器とか、あと、これ、スプーンも今説明しましたけども、いろいろ食べる量だったりとか、食べ方だったりとかっていうことで、いろんなスプーンにかえています。

あと、だっこ食べですね。だっこの赤ちゃんの食べ方です。だっこ食べていうのは、ちょっとこういうふうにして食事をあげてるところも、公立の保育園ではないんですけども、私たちはだっこ食べはこういうふうにして、みんなしてるわけじゃなくて、椅子にまだ座れない月齢の子に対してはだっこ食べというのをやっています。お食事をこの前に置いて、それで子どもにこういう感じであげてるんですね。

これのいいところっていうのは、子どもの口の動きが見えます。表情を見ながら声かけができます。おいしいねって、もぐもぐしようとか声かけをしながらやるんですけど

も、子どもにとってもいいことは、大人の口の動きも見せながらやっているの、その子の月齢に合わせたべた方とか、口の動きを見せていくことが、見ることができるんですね、赤ちゃんも大人の口の動きを。だから、この調理形態によって、舌で潰せるかたさで、そのときに大人も舌で潰せるような食べ方をして見せるんです。そうすると、子どももまねするんですね。だから、そういうことで大人の顔も見れるし、私たちが子どもの顔を見ながら、こうやって食べさせられるっていうようないいところがあります。

あとは、ゼロ歳の離乳食についてはこういったところですけども、1歳クラスでの食事の指導を言いますと、1歳クラスになると自分で食べたいっていう気持ちももっともって大きくなってきます。それで、食器に手を添えて食べるっていうように、こちらとしては促していきます。お手々、こっちに持とうねとかって感じで。スプーンも、こう握り持ちだったんだけど、下手持ちで食べるように促していきます。それと、ほぐしながらもやっぱり自分で食べるっていうことが大事なので、そういうことは大事にしてるんですけども、あと、おかわりとか、おかわり欲しいの、子どもがうんうんとか言っても、おかわり欲しいんだねって、こちらが子どもの気持ちを察してあげたりとか、要らないっていうような意思表示なんかもできるように声かけをしています。要らないんだよねとか、じゃあこれ、もうバイバイしていいわねとかって感じで声かけもしています。1歳児クラスは乳児用のスプーンで、自分で食べたい時期っていう気持ちをととても大事にしてるので、大人もこの介助用のスプーンを持っているんですね。子どもは食べて、それもまだ食べられないようなときは子どもの手を添えて、こうだよとかっていうふうにやったりとか、こちらで介助用のスプーンを使いながら子どもの食事を支えています。

あと、2歳児クラスの後半になると、フォークを使っていきます。フォークは麺のときに使うんですけども、今まで麺のときはこういったスプーンで、麺もこのスプーンに乗る長さになるように切って子どもたちに渡してるんですけども、フォークのときはもうちょっと長目にして、フォークでもすくえるような感じで、調理師も食事ではそれに配慮してやっています。

2歳の中で習得をすることは、自分の食べられる量とか苦手なものを自分で知って、これ減らしてとかって伝えられるっていうことが、そういうことをママたちに伝えるように話していますね。あとは、少しお友達と一緒に食べるのが楽しいなっていうのを思えるような、そんな食事指導をしています。

○福野委員 それでは、私の方から幼児クラスのほうの食事についてお話しさせていただきます。

 この入園のしおりっていうのがありまして、新しく入られた方に小金井の公立保育園の概要というか説明しているところに給食っていうのがありまして、そこに書いてある「おいしい給食づくりと健康を考え、こんなことに気を配っています」っていうふうになって、「できる限り国産の食材を使用しています」。ごまとかは今国産のものはほとんど手に入らないので難しい部分があるんですけども、国産のものを使用しているということと、遺伝子組み替え食品は使用していません。スープ、だし類は化学調味料を使用せず、天然のものを使用して、何に使う、おうどんのだしもそうですね、おみそ汁にしても、何にしても自分たちで天然のものを使ってだしをとるっていうことをしています。調味料、おかし、乾物は無添加のものを主に購入しています。薄味を心がけ、素材を生かした調理を工夫しています。ソース、カレー類とかホワイトソースとかブラウンソース、それからお総菜、コロッケ、ハンバーグ、ギョーザ、シューマイ等の加工食品、冷凍食品を使用せず手づくりをしていますということで、結構カレーもバターをいたため小麦粉をいたため、それで作るっていうことで、保育参観のときに試食会をしてるんですけども、カレーの日を、一度保育園のカレーを食べてみたかったっていう保護者の方が結構多くいらして、その日、やっぱり子どもたちが保育園のほうのカレーがおいしいっていう意味がわかりましたっていう感想をいただくことが多いんですけども、そういうふうな感じです。おやつは手づくりを主にしていますということで、さっき八下田さんの方から、結構、小金井の保育士さんの給食は充実しているっていうところで、やっぱりこういうふうに基本のところをちゃんと押さえてるから充実しているのかなと思っています。

 それで、資料の10で、結構前に配られたんですけども、小金井市立保育園、保育内容っていうところで、お持ちの方は出していただいて、その10なんですけれども。

○三橋委員長 10ページ。

○福野委員 10の1ページ目に食事で、2ページ目の上から9行目が「幼児になると」っていうところで、幼児なんですけれども、私もちょっときょうはアピールをしようと思って、こんなものを持ってきました。これは、さくら保育園の異年齢クラスのあるクラスが使ってるものなんですけれども、きょうの日付等を書いて、きょうはワカメうどんとギンダラのみそ漬け焼きと、サツマイモのオレンジ煮、カリポリキュウリ、スイカ、ご飯、麦茶だったんですね。それでこれを、朝来ると、ああ、そうか、きょうはワカメご飯だ、

楽しみだなみたいな感じで、それでこういう配膳の仕方、ここにご飯、みそ汁、おかずのときはまた別の並べ方という感じで、こういうふうに並べ方も、割と異年齢クラスなのでフォークを使ったりお箸を使ったりしてる子がいるんですけども、お当番さんはその子が今何を使って食べてるかっていうところをちゃんと把握して、その子に合った、食べるお箸かフォークを配膳してあげるみたいなことをしています。それが、この献立を知らせて楽しみにしたりっていうところになっています。

お当番さん、幼児クラスになると食事当番っていうことをしてまして、大体班活動をしているので、6人グループできょうのお友達は誰かなみたいに考えて、ああ、きょうはあの子がお休みだから5人配るんだとか、そういうふうな数の認識に人数が上がったりしています。フルーツはトングみたいなので大皿を、給食室からボウルみたいなものに入ってきて、それを人数分大皿にお当番さんが盛るんですけども、それもブドウだったら1人3粒というときに、1粒、2人分みたいに考えてお当番がしたりしています。

次は、季節の行事を伝えるっていうことで、ヨモギだんごをつくるとか、秋のお月見だんごづくりとか、自分たちで掘ってきたジャガイモを使って豚汁づくりをしたり、サツマイモを使った薩摩汁をつくったりっていうふうに、食に対しての興味を持つようにいろいろなクッキングとか、そういうこともしています。こういう施設の行事だけじゃなくて、ピザトーストをつくってみたりとか、あとクッキーをつくってみたり、そういうことも、今この卵アレルギーのお子さんがいたり、あと、牛乳アレルギーのお子さんがあるとき、じゃあ卵を使わないクッキーはどういうのがあるかなっていうと、じゃあサブレというものをつくるとか、あと牛乳のときはバターを使わないのは、じゃあマーガリンを使ってやればみたいな感じで、栄養士と相談しながら、どの子も楽しくクッキングができる方法を考えながら取り組むことができるってというのが、やっぱりその保育園に栄養士がいると、調理師がちゃんといて、相談しながら進められるよさがあると思っています。

あと、幼児になると、ちゃんと挨拶をするとか、食器に手を添えるとか、そういう自分の食事の後、片づけるというときも、ゴムべらを使って汚れたお皿をきれいにするとか、そういうこともしています。やっぱりみんなと一緒に楽しく食べるということと、ある程度一定時間で食事を済ますというのをやったりっていうことも狙いの一つになっています。

あとは、献立サンプルを大体玄関のところに置いてあるんですけども、さくら保育園は事務室とちょっとそばなので、お迎えに来るときに保護者の方が、へえ、こんなの食べたの、いいね、おいしそうって言うと、ママも食べたかったのか子どもが言う。うん、ママも食べたかったよとかいうふうにして、そのサンプルを見ながら親子の会話ができるという、そういうところのよさがあるなと思っています。

あと、「つくってみませんか」っていうのも毎年配布していて、保育園で好評だったメニューを保護者に伝えておうちでも一緒につくってもらったり、また、その「つくってみませんか」だけじゃなくって、ちょっとしたメニューの紹介みたいな感じで切り抜きのを玄関に置いて、ご自由にお持ち帰りくださいみたいなのをつくると、それを持って帰ってうちでつくってみて、やっぱり好評でしたみたいな感じで、おうちと園と一緒に食育ができるかなって思っています。あと、食物アレルギーのお子さんが多くなっているんですけども、そういう配慮もしています。

公立5園の栄養士による栄養士会があったり、5園の給食調理員が集まって話し合いの機会を持ってたりっていうことが情報交換の共有になって、こういうメニューがあるよとか、これが好評だったとか、アレルギーがいるときの、さっきも話したように、おやつはこういうのがつくるといいよとか、そういうふうな情報交換ができるっていうのもいいことだなと思っています。という感じで話したんですけども、という感じです。

○三橋委員長 ありがとうございます。多分、本当はもっといろいろと配慮されてることがいっぱいあるという中で、今資料でいうところの、ここのところの部分について話していただいたんだろうなってちょっと思ったりはしますけれども、今ちょっとお話聞か中で、ここのところについて確認したいとか、こういうところを質問したいとか、もしあれば。

○福澤委員 補足でいいですか。

○三橋委員長 どうぞ。

○福澤委員 小金井保育園でございます。離乳食会議っていうのが1か月に1回ありまして、その子、その子個別にその段階に来月上げるかどうかっていうのも給食メンバーとゼロ歳の担任などで、その子の食べぐあいとかも見ながら決めていくんですけども、これが、その子にとって段階が行き過ぎると、やっぱり飲み込みが多い食べ方になってしまうとかっていうことがあるので、本当にその子が今の口の機能だったりとか、そういうことに即したものであるかどうかっていう意味では、来月、離乳食を1段階上げるかとか、来月も今月と同じ感じですか、あと、これについては、例えば主食についてはこの

ままだけども、おかずについては、じゃあ1ランク上げましょうとか、そういった感じの話し合いが持たれてまして、それが、保護者の方にも連絡をして保育園ではこういうふうにやっていきますっていうことで話をしています。

家庭でも、今でも連携っていうのがとっても大事で、保育園でやってもおうちで離乳食の段階が違ってたりとかすると、子どもにとってもよくないので、おうちでもやってみてくださいっていうようなこととか、おうちでためてもらってことで本当に子どもがすごく園でスムーズに食事ができるようになるっていうケースが、もう幾つもそういった経験をして、やっぱり家庭との連携というのは大事にしています。

○三橋委員長 ありがとうございます。

 では、委員の方からご意見とか、ご質問とか。

○東海林委員 今お話ししていただいた中で、例えば小金井ならではとか、私は、ごめんなさい、自分の子どもがいて、保育園のことしか知らないもので、ともすれば例えばほかのところ、ほかの市なり、ほかの運営形態だったりすると落ちちゃうようなところっていいですか、小金井ならではの手厚くやってるっていうようなところがもしあれば、教えていただければなと思ったんですけど。何ていうか、ここはなかなかここまでやってるところはないだろうとか。

○三橋委員長 多分、他園のことってなかなかそんなにわからないところありますけどね。

○東海林委員 なるほど。

○三橋委員長 逆に言えば、こういったところっていうのが過去どういうふうな過程でこういうふうな形になっていったのか、要はいろいろと研究されたり、過去の蓄積には累積とかあるとは思いますが、こういうふうにしたほうが今までの経験則なりなんなりでいいんだろうなっていうところは理解できると思いますし、逆に言えば、ここまでやってるっていうのは、僕なんかもそんなの全然知らなかったんで、すごいなっていうようなところ、正直思うところなんですけども、でも、これをこういうふうに行っていくに当たった経緯だとか、あるいは、これをこういうふうにしていくと、ああ、こんないいことがあるんだなっていうところっていうんですかね、一つ一つの何ていうかな、2歳児で苦手な食べものをできるだけ減らしてあげたいとか、友達同士で食の楽しさとかをわかるようになっていうのは、非常に一つ一つすばらしいなとかって思ったりするんですけども、それを、そうだな、これをやるとやらないで実際どういうふうな違いが出てくるのかということも含めて、こういったところがどういうふうな背景で出てきたのかという

ところをもしわかればなとか、ちょっと思ったんですけど。何か、ここにもこんなのが出て、やったのでもあれだし、どっかの例えば・・・なら・・・とかそういうところでこういうのが研究されてるとか、何か参考になったりするようなことってあったんですかね。

○福澤委員 それぞれゼロ歳、1歳、2歳の発達の大事なところっていうのは、勉強して行って、それでそのことで食事についてはどうなのかとかっていうような形ではやっぱり研修に行ったりとか、そういうところでは情報を得てきたりとかというところもあります。

○三橋委員長 研修っていうのは、どこか研修機関みたいなのところがあるんですかね。

○福澤委員 はい、幼児研修のテーマが食育だったりとか、そのときによって違うんですけども、そういったものもあります。

○三橋委員長 そういったのはNPO団体か何か、別に国がそういう研修をやったりするわけじゃないんですね。

○八下田委員 何か、質問後でいいですか。

○三橋委員長 いや、質問どうぞ。

○八下田委員 おやつが手づくりなのはすごいいいなと思ってて。

○三橋委員長 ああ、全然関連してないですね。

○八下田委員 ああ、そうなんです。

○三橋委員長 じゃあ、ちょっと後でもいいですか。すみません。

○海野委員 ちょっといいですか。

今、研修という意味でお話が出ましたけれども、保育士研修っていうのを主任たちが集まってる主任会で企画をして行って、食事については白梅保育園に。

○三橋委員長 白梅ですね、

○海野委員 見学に行ったり、講義聞いたりっていうような形をそういう中であるのかを職員が自主的に勉強に行くっていうようなことで、随分それは長い期間積み重ねてきました。

今、どんないいところがあるかっていうお話がありましたけど、さっきだっこ食べっという説明があったと思うんですけど、お座りができない子はだっこ、それはやっぱり食べるだけの機能じゃなくて、体全体のつくり、背筋がきちんと育ってから座らせるっていうようなことが体の発育にとっては大事で、それまでは無理して座らせない。食卓テーブルがついた食卓椅子ってありますよね、こくぶんじ保育園はそうだったんですけど、すぽんって入れちゃうと、子どもが動きたくてもすごいはめられちゃうと自由がき

かなくなって、動くなっていうか、大人にとっては都合がいいんですね、食べさせるの、でもそういうことはしないで、ちゃんと自分が座れるようになってから子どもに座らせて、1対1で対面で食べさせるっていうやり方をしてるんですね。

そのことで、子どもたちは保育園に来るとどうしてちゃんとお椅子に座ってご飯食べるんでしょうっていうふうに保護者の方がよくおっしゃるんですけど、ちっちゃいときからそういう習慣がついていて、自分でちゃんと座ってお食事のときは集中して食べられるっていうのがあって、後から新入で入ってきたりするお子さんも、周りのもう進級してきた子たちがそういうふうな形で食べているので、見て学ぶというか、そういう環境の中にあるっていうようなことがあって、お食事はそのテーブルとかお椅子とか、あと1対1で食べさせるとか、体の発育とか全部、あと気持ちですよ、一番大事なのは気持ちなんですけど、食べる意欲っていうような、それが信頼関係がきちんとある大人と安心しながらおいしく食べるっていうような、そういうようなことをゼロ歳のうちからとっても大事にしていって、それがずっとつながって行って、ゼロ歳、1歳、2歳っていうふうなところで身についてくるんだと思います。

これは比較っていうふうなことが余り私たちはしていないので、こういうふうにごいんですよっていうふうにはアピールはなかなかしないんですけども、今質問していただいて、ああ、そういえばこういうところを大事にしてきたので、きっとこういう姿があるんだなっていうふうには思いましたね。

○福野委員 さくら保育園で年に1回、職員の全体研修っていうのが夜あるんですね。それで、ことしも9月にあるんですけども、食についての勉強っていうことで、講師の方は食事についてのっていう感じで呼んで、また職員全体の共通の勉強っていうことをする予定になっています。来年、3回っていうのは給食関係と保健関係と保育関係っていうふうにサイクルを回して、満遍なく勉強をするとかいうようなことでやってます。

○三橋委員長 ありがとうございます。

八下田さん、先程の質問を。

○八下田委員 おやつは手づくりなのは昔からそうなんですか、小金井は。何か、菓子とか買った煎餅とかクッキーだったりっていう話も聞くので、小金井は恵まれてるなど。昔からですか。

○福野委員 自然食品のクッキーとか、ちょっとカロリーが足りないときにお煎餅もついたりすることがありますけれども、基本は手づくりのものに少し補食みたいな感じで作って

ることと、あと給食打合せのときには、さっきも話したようにみんな集まっていくので、そういうときは既成の菓子になったりしますが、基本的には手づくりっていう。

あと、よく聞かれることは、バナナとかパイナップルとかは保育園で出ないんですかみたいなことも、やっぱり国産のものはなかなか手に入らないので、ほとんど。

○片桐委員　　きょう気になったのは、先ほど海野さんのほうからあった、主任会議で話し合って、その後、その職員が研修に行かれるというのは、自主的に行くっていうふうに言われてましたけど、それは自主的というのは保育士の自主性に任せてやると、あるいは市としてそういうことをやって保育士を育てていくというカリキュラムがある中での自主性なのか、ちょっとそこを確認しておきたいです。

○福野委員　　研修については何通りかあるんですね。主任会で企画してやってるのは、業務時間の中でみんなが学びたいものをこういう講師にこういう内容をしてほしいっていうふうを集めて企画していくものと、そのほかに小金井市の中に自主研修っていう制度があって、それを活用して自分で行きたいところに行く、そのための職免ですとか補助でお金があるっていうようなことで、それ以外にも自主的に勉強しているっていうのがあって、そういうふうな研修計画については各園で取り組んでいて、それをいろんな呼び方で取り組んでいるっていうようなことがありますね。

○片桐委員　　そうすると、その主任者会議の中で、例えば若い保育士なんかには、できるだけ今こういう方向を学んできてもらいたいなみたいなことも話し合って、全体として5園が同じようなレベルで質を保っていくようなものになっているというふうに理解している。

○福野委員　　はい、そうですね。うまく整理していただいて。

○小泉委員　　聞いていて、すごくモチベーションが高いんだなというふうに思ったほか、国分寺市では研修の面でちょっと困難があったっていう話もあったと思うので、そういうふうに自分で自主的に行くものも含めて、自分たち、先生たちが今必要だと思うものを選んで研修されてるっていうところがすごくいいのかなということと、何だろう、保育課の方が主催してやるものももちろんあるんだろうけれども、またそういうのは別で、本当に現場の先生たちが必要としているものというところでの研修場所があるっていうところがすごく保育内容の底上げというか、ちょっとつながっているんだなってすごく思いました。感想ですけど。

○三橋委員長　　ありがとうございます。

○海野委員　　先ほど主任会で企画してる研修っていうのは、今は日中やるんですけども、それに

については民間の保育園のほうにも呼びかけをして、参加があるっていうような実績もあります。

○三橋委員長　やっぱり中にこういったスプーンというの、おかゆスプーンだとかいっぱいあって、それを使いこなしたりとか、どのタイミングでどういうふうに切りかえたらいいかとか、この段階も8段階あって、要はこの段階だねっていうのも別に一人一人その状況なり違って、その判断とか把握とかって、それは非常に難しいじゃないですか。やっぱり経験なり一人前の保育士になっていくのはそれなりに大変だなんて思うんですけど、このスキルとかっていうのは園長先生方が身につけられるというか、判断していくっていう中で、こういうふうに、そういうのができるようになったら一人前とか、こういうのが、その判断とかっていうのを、何ていったらいいのかな、どういう形で身につけられていくなり、あるいはやっていくなりっていうところっていうんですか、例えば何年ぐらいかかるとそういうのがもう自然とわかる、何年ぐらいの保育をやっていくうちにそういうのがだんだんわかってくるとか、どんな感じなんですかになって思ったりするんですけど。

○福澤委員　その人によってハードル上げたり下げたり。

○三橋委員長　そういうことなんですね。

○福澤委員　そういうのもありますし、でもちょっと、このハードルでもうできるねとか、もう何年になったからこれは大丈夫だろうとかっていうのは、その人によって課題を与えながら、今までじゃあ幼児が多かったのが乳児でやるんだけども、その人を補助するために、補助できるベテランをつけてとか、そういう感じの、何ていうのかな、担任の組み合わせみたいなのはやってます。

○三橋委員長　なるほどね。ちょっと時間、もう特にこれっていうのは、別にきょうで終わりっていうわけじゃなくて、テーマがまたいろいろとありますし、食にしても多分これではまだ語り尽くせないことがいっぱいあると思うので、大事なのは、やっぱりこういったのが事実として保育をやられてる中で、それをちょっと我々父母がどう理解、あるいは父母だけじゃなくて、一般の市民の方とか、そういったいろんな方にどういうふうに理解されて、それが単純に評価の仕方はいろいろとあると思うんです、子どもといたときに、別に普通にそんないっぱいスプーンがなくても食べれるじゃんみたいなことを言う人も当然いるだろうし、そうじゃなくて、そういうの1個1個がすごい大事だっていうような評価もあるだろうし、やっぱりそれは、最後は評価は個人個人の問題だとは思って

すけど、でも、ただ少なくとも、こういうことを我々の保育園っていうのはこういうふう
にやって、それに対してどういったことをして、どういうことを大事にして、それ
をじゃあ今後どういうふうにしていきたいのかっていうところについてはしっかりとこ
の中では議論をしていきたいなっていうところがあり、かつ、それがなかなか外に見え
なかったり、わかりにくいことがあるので、それをちょっといかに整備してまとめてい
ただくっていうことが大事かなっていうところの中でのこの保育の質の話なので、ちょ
っとそのあたり、なかなか大変かもしれないですけども。

○川村委員長　それで、すみません、ちょっとこれは今お手元がないかもしれないんですが、1月の
22日に小金井市立保育園の保育メニューという資料が資料10で出されていますけれ
ども、その食事の部分の、今きょうご説明があったのは、その部分ということで理解
してよろしいですね。この内容について云々についてやっていくということですね。

○三橋委員長　そうですね、それを。

○川村委員長　じゃあ、次回からこれを、資料をお持ちいただくほうがよろしいですかね。

○三橋委員長　じゃあ、補足とかもしあれば、なかなか文章だとわかりにくいところもあるので、そ
れを何か、ちょっとうまく整理して、ポイントはここだとか、こういうところを気にし
てされてるとかっていうところを、もう少しぱっと見てわかるとか、伝わりやすいよう
なやり方、今言った道具とかそういうのを含めてだと思っんですけど、ちょっとやって
いけないかなっていうところあるんで、今ちょっとそういったのを1ついただいたんで、
少し事務局とも話しながら、園のほうとも相談しながら、うまく一回整理できればと思
いますので、引き続きよろしくをお願いします。

○川村委員長　それでは、以上で(6)保育の質について終了いたします。

次に、(7)当面の課題についてを議題といたします。

事務局のほうからお願いをいたします。

○諏訪委員　それでは、資料44をもとにご説明をさせていただきます。

前回でもこの資料をお出しさせていただいたのと同様な形となります。そして、今回
①のところで臨時職員の現在の状況ということで掲載をさせていただきました。ただ、
この状況としましては、7月28日にお出した状況と変化がないっていうところは大
変申し訳ございません。ただし、ここで不足している部分については、全く何のお話し
合いもないということではなく、調整にまで至らなかったとか、また、今後応募者等と
調整の上、一定配置を見込んでいるものもございますので、またそれについては今後経

過を報告させていただきたいと思います。

ここに産休代替については記載をしておりますが、その部分については現在配置されている状況でございます。

続きまして、②非常勤嘱託職員、短時間勤務に関する朝夕パートさんの募集、採用状況です。以下、表をごらんいただきまして、現在のところ4園で募集等をした結果、9月1日には3名の採用が決まっております。募集に対してまだ不足している部分と、わかたけに関しましては新たに今後必要となりますので、再度4名の募集を継続して行っていく予定でございます。

○川村委員長 何か、ご質疑ございますか。

○三橋委員長 これはあれですね、①については前回とまるっきり数字的には変わってないということなんですけども、人の出入りが全くなかったというわけではなくってということですか。それとも1か月間、人の出入りが全くなかった。

○諏訪委員 動きがちょっとないです。

○三橋委員長 ないってということですね。

○諏訪委員 はい。

○三橋委員長 じゃあ、あれだけいろいろと張り紙したりとか、募集をかけたとかやってても1か月間。

○諏訪委員 当然、お話しはあつたりするんですけど、採用までに至らないってケースです。

○三橋委員長 至らない。

○諏訪委員 大変申し訳ないんですけど。ただ、ちょっと8月ということもありますので、そういった動きも鈍ってる状況もあるところですよ。

○三橋委員長 ない時期だと。

○諏訪委員 現在、臨時職員については8月15日の市報でも募集をしているところではございますので、まだちょっと若干期待をしているところではあります。

○三橋委員長 産休代替はすぐに見つかったというか、それは募集かけて。これはあれですよ、任期つきになるんですか、産休代替は。

○諏訪委員 臨時職員となりまして。

○三橋委員長 臨時職員ですか。

○諏訪委員 期間が決まっております臨時職員ということになりますが、なお、こちらは募集もしますが、そうですね、それ以外でも、公募以外でもお話っていうのはできますので、

そういったところの調整等も入っています。

- 三橋委員長 うまく産休だけは見つかったということなんですね。
- 諏訪委員 そうですね。
- 三橋委員長 育休になるとあれでしたっけ、任期つきに変わるという形。
- 諏訪委員 それは一概には言えません。
- 三橋委員長 ああ、そうなんですね。
- 諏訪委員 はい。ちょっと期間等の考慮もありますので、それ以外が任期付ということではあり
ません。
- 三橋委員長 でも、産休の方は次にかわられるわけですよね。
- 諏訪委員 人ですか。
- 三橋委員長 人っていうか、ごめんなさい、産休で休まれてる方の、急にまた産休の方に、一、二
週間を過ぎたら、産休期間が終わったら。
- 諏訪委員 そうですね、区分が変わってきますね。
- 三橋委員長 そうなりますよね。またあれですよ。
- 諏訪委員 また別な形の採用っていう形です。
- 三橋委員長 続けるわけいかないですよ。
- 諏訪委員 はい、そうです。
- 川村委員長 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。
それでは、この(7)の当面の課題については終了いたします。
それでは、(8)次回の日程の確認を議題といたします。
若干休憩いたします。

休 憩

再 開

- 川村委員長 それでは、再開いたします。
次回の日程は9月30日火曜日、午後7時半からと決定いたします。場所は追ってご
通知を差し上げます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。大変お疲れさまでございました。

閉 会